

2020（令和2）年度 福岡県立大学社会福祉学会第12回大会

地域共生社会の実現に向けた ソーシャルワークの展開

日 時：2021年2月20日（土）13：00～16：30

主 催：福岡県立大学社会福祉学会

共 催：福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科

（一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック

後 援：（公社）福岡県社会福祉士会 （一社）福岡県精神保健福祉士協会

（公社）福岡県介護福祉士会 （一社）福岡県医療ソーシャルワーカー協会

（公社）福岡県介護支援専門員協会 （一社）福岡県スクールソーシャルワーカー協会

（社福）福岡県社会福祉協議会 福岡県社会福祉法人経営者協議会

福岡県知的障がい者福祉協会 福岡県身体障害者福祉施設協議会

福岡県老人福祉施設協議会



開催のご挨拶

福岡県立大学社会福祉学会は、今回が12回目となります。第11回は、2020年2月29日、「ソーシャルワークの深化を求めて」をテーマに、準備万端で臨んだのですが、コロナ感染の影響で直前になって中止を余儀なくされました。大変 残念であったと同時に、直前までご準備頂いた関係者の皆さまには改めてお礼を申し上げます。

さて、今回(第12回大会)は、「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの展開」をテーマに、上野谷加代子先生(同志社大学名誉教授)をお招きして、オンラインで開催することとなりました。社会福祉の歴史を振り返れば、福祉は民間人の手によって地域のニーズに応じるべく事業が起こされ、展開されて、やがて、行政が主要に関わるようになり、新たな公私協働関係が形成され現在に至っています。第二次世界大戦後段階では、国家責任が特別に強調されました。しかし、あらゆるニーズを国家の手に委ねることができないこともまた確かです。日本では家族が福祉の隠れ資産なのだ和家人に過剰な期待を寄せた時代もありました。しかし、今や家族の個人化が進行しています。地域社会において 分断化、孤独化・孤立化が進行しています。そうしたことを背景に、今日において「地域共生」が唱えられ、さらには政策概念化しているという、やや複雑な状況にあります。伝統的な地域共同体に復帰することは不可能ですし、誰も望まないでしょう。個人の自由と尊厳と多様性を尊重した新たな地域社会の創造は、福祉関係者を超えた、あらゆる人々にとっての課題であると考えます。その中で、ソーシャルワーカーこそが中心的なキーパーソンとなるのが、今 改めて求められていると思います。そのためにカリキュラムや研修プログラムの在り方が再検討される必要があるのではないのでしょうか。このような課題は、日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）全体としての課題であり、九州ブロックとしての課題になっています。

そこで、第12回大会は、ソ教連九州ブロックとの共催事業として、県下の多様な職能団体、経営者協議会の後援の下に開催することとなりました。今大会も有意義な交流と情報交換の場となることを願って、開催の挨拶とさせていただきます。

学会長 鬼崎信好



講師：上野谷加代子（うえのやかよこ）氏



大阪市立大学家政学部社会福祉学科、同大学院家政学研究科社会福祉学専攻修了。研究テーマは地域を基盤としたソーシャルワークの展開方法（論）と教育方法。桃山学院大学教授、同志社大学社会学部社会福祉学科教授を経て現在同志社大学名誉教授。放送大学客員教授、日本地域福祉学会会長、日本福祉教育・ボランティア学習学会会長、ソーシャルワーク教育学校連盟副会長、厚労省社会保障審議会福祉部会委員等を歴任。全国民生委員児童委員連盟100周年事業委員会委員、

大阪市をはじめ豊田市（愛知県）、精華町（京都府）、東近江市（滋賀県）、都城市（宮崎県）、松江市（島根県）地域福祉計画策定委員会委員長、等で活躍。

現在、「広がれボランティアの輪」連絡会議会長、中央共同募金会理事、「赤い羽根基金」運営委員会委員長、社会福祉振興・試験センター理事、大阪市社会福祉審議会委員、枚方市社会福祉審議会会長、滋賀県社会福祉協議会理事、大阪市ボランティア・市民活動センター 所長、ソーシャルワーク教育学校連盟相談役など務める。

【近著】

- 2015年「福祉ガバナンスとソーシャルワークービネット調査による国際比較ー」（共編著）ミネルヴァ書房
- 2016年「地域福祉をデザインする」（共編著）有斐閣
- 2017年「グリーンソーシャルワークとは何か～環境正義と共生社会実現」（監訳）レナ・ドミネリ著、ミネルヴァ書房
- 2018年「地域福祉の現状と課題」（共著）放送大学教育振興会
- 2020年「共生社会創造におけるソーシャルワークの役割」（編著）、ミネルヴァ書房



今年度は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、 **zoomによるオンライン学会**として開催します

学会への参加申し込みをしていただいた皆様には、事前に学会からzoomへのご招待メールをお送りします。zoom（オンライン会議システム）を使用できる環境を事前に整えていただき、当日の開会時間になりましたら、ご入室ください。

なお、zoomの使い方については、本開催通知の別紙にて簡単な説明をご案内しておりますので、ご参照ください。



講演概要

「地域共生社会創造とソーシャルワーカー（福祉人）養成」

今日、私たちは、大きな岐路に立たされています。それはコロナ禍という危機の中で、従来から社会福祉関係者がかかえてきた課題・問題が顕在化したということです。医療・保健・福祉・教育などのヒューマンサービスと経済再生とのバランスをどのように保っていくか、何よりも私たち社会福祉研究者や実践者にとって、何をよりどころとして生活課題を抱えている方々へ接近し、寄り添い、かわり、本人にとって社会にとって、よりよい（ウェルビーイング）今日の暮らしを、明日からの暮らしを保障できるのか、が問われています。

そして、社会福祉の潮流は「地域共生社会の創造」へ向けて法律改正が続き、1990年代の社会福祉基礎構造改革の流れを強めています。私は、この基礎構造改革の社会福祉審議会（当時、厚生省）の委員でしたが、「地域共生社会」づくりの政策化の流れは、だれがどのようにその政策を実態化するのか、地方自治体の責任と人材の必要性の議論抜きに決して良い政策の展開は生まれないと考えます。つまりソーシャルワーカーとしての社会福祉士、精神保健福祉士等の配置と働き如何によって、地域共生社会の実現が左右されるということです。さらに言えば、ソーシャルワーカーは、地域社会における保育士、介護福祉士等、社会福祉人材との協働がなければ、誰をも排除することなく地域社会において、共生していくという理念の下で包括的支援や重層的支援の体制を構築していくことは困難であると思われます。

講演では、私の今までの様々な委員会における経験をふまえ、地域共生社会創造の意味するところ、この間の厚労省の考え方、ソーシャルワーク教育学校連盟（以下、ソ教連）の動き、結果としてのソーシャルワーク教育の変更点など、を話します。さらに、ソ教連では「地域で活躍できるソーシャルワーカーの実践力強化の研修（コソ研）」に加え、「コミュニティに根差した“ふくし”人材を養成する研修（こふく研）」を企画、実施する準備をしています。また、全国社会福祉協議会では、「これからの地域づくりを担うソーシャルワーカーの実践力の強化・育成に関する企画委員会」による教材開発とモデル研修が始まっています。このように、ソーシャルワーカーの実践力強化を目指して、経営協や全社協が協働して研修を強化している中で、大学や専門学校等養成機関の役割が期待されます。

当日は、材料を提供しますので、参加者の方々と共に、これからのソーシャルワークの在り方、ソーシャルワーカー養成の在り方等を議論し学び合えたら幸いです。



プログラム

※プログラムは全てzoomにて実施いたします

13:00	開会
13:15～14:15	ウェビナー「コミュニティに根ざした“ふくし”人材を養成する研修」 ※テーマに関する解説動画を皆様と一緒に視聴します
14:30～15:30	基調講演「地域共生社会創造とソーシャルワーカー(福祉人)養成」 講師:上野谷 加代子 氏 (同志社大学 名誉教授)
15:40～16:20	対談「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの展開」・質疑応答 パネリスト:上野谷 加代子 氏 (同志社大学 名誉教授) 河野 高志 氏 (福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授) コーディネーター: 村山 浩一郎 氏 (福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 教授)
16:30	閉会



お申込み方法

申込期限：2021年2月18日（木）13時

学会へのご参加希望の方は、以下の内容をE-mailかFAXにて下記申し込み先にお知らせください。お知らせいただきましたE-mailへ2月19日（金）までに招待メールをお送りしますので、ご確認くださいませますようお願いいたします。

ふりがな		本学との ご関係 (いずれかに○)	在校生(年次)
氏名			卒業生(年卒)
ご所属先	その他		
E-mail(必須)		電話番号	
住所	〒		

【お申し込み・お問い合わせ先】

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科内 福岡県立大学社会福祉学科事務局
(担当：鬼塚)

FAX：0947-42-1491

E-mail：onitsuka@fukuoka-pu.ac.jp

〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地 TEL：0947-42-2118 (代表)